

春のあたたかな日差しで、校門の枝垂れ桜が彩を放ち始めてきました。1年生の植えたチューリップも赤・白・黄色とかわいらしく咲き始めています。

6年生は、3月18日の卒業証書授与式で、自分の夢を高らかに宣言し、胸をはって卒業することができました。「凝縮された厳粛な式で、子どもたちがとてもいい表情でよかった。」と保護者も笑顔で話してくれました。また、修学旅行の代わりに鴨川シーワールドに行き、6年間ともに過ごした仲間との絆を深め合うことができました。

在校生も休み時間には、なわとびやドッジボールをしたり、鉄棒や遊具で楽しく遊んだり、体育の時間では、ハードル走やたまごわりサッカー、キックベースに元気に取り組んでいました。掃除の時間には、床に膝をつきながら黙々と雑巾がけをする姿を見て、本当に大森小の子どもたちは明るく素直でよく働いてくれる子どもたちだと、つくづく感じています。

今年度は、誰もが経験したことがなく、歴史的難局ともいわれた新型コロナウイルス感染症とのたたかいの日々でした。それはいまだ終わることがありません。ようやく海外で使われ始めたワクチンに期待するしかないのでしょうか。今、私たちには変わることなく、手洗い、マスク、ソーシャルディスタンス等々の感染対策を丁寧に積み重ねていくことがあらためて求められています。

さて、コロナ禍の生活であったからこそ、再発見できたこと、新しく学んだこともたくさんありました。毎日友だちに会える幸せ、手をつないで一緒に歩ける幸せ、一つのことにも声を出して笑い合える幸せ…。当たり前のことがとても素敵なことだとあらためて、知ることもできました。身近な生活の中でも、マスク越しではなかなか表情がわかりづらいため、言葉を大切に使う相手に伝えることが必要であることや制限のある生活の中でも、工夫や努力によって楽しみや達成感を生み出すことができることなど、今年環境の中であらためて気づかされたことだったのではないのでしょうか。また命や人権を学ぶ機会もたくさんありました。毎日の小さな習慣が自分と大切な人の命を守ること、医療の最前線で自分の身を粉にして働く人々の存在、コロナにかかわる差別の存在とそれを許さない生き方。創意工夫した日々の授業やオオモリピック、大森フェスティバル、マラソン大会、なわとび集会、人権集会…で見せてくれた一人一人の真剣な眼差しと笑顔。校外学習では、ふるさと印西再発見をテーマに、自分たちの生きている大森の良さを十分に感じ取ることができました。子どもたちが見せてくれた取組はコロナとのかかわりのすべてが「負の経験」ではないことを物語っています。おかれた環境の中で自分のできることは何か、どうすれば自分にとってよい時間に変えることができるのかをしっかりと考えて行動する大切さを教えてくれました。私たち教職員も子どもたちとともに成長することのできた一年でした。

今年度は、緊急事態宣言で6月からの正式な学校再開となりましたが、分散登校や長期休業の短縮により授業時数も確保することができました。各種行事も形を変えながらもなんとか実施することができました。

文部科学省のGIGAスクール構想により、一人一台タブレット端末(クロームブック)が貸与されました。これからは、学校と家庭がオンラインでつながりデジタルによる学習が可能になってきます。5Gが主流になり、自動運転や医療ロボット、世界の人と瞬時にコミュニケーションをとることができるなど…ますます便利な世の中になってきます。その陰で、SNSの誹謗中傷メールにより自殺に追い込まれる芸能人や子どもたちのニュースも枚挙にいとまがありません。大量の情報の中では、一つの情報を鵜呑みにするのではなく、様々な角度から情報を収集

し、自分で主体的に判断する力が必要です。ICT教育をとおして、子どもたちにその力をつけていきたいと思います。

私たち教職員も試行錯誤の中で、本当に必要な教育活動とは何だろうとあらためて考えながら歩んで参りました。子どもたちの笑顔や成長を確かめることが教育活動の唯一の原動力でした。「すべては子どもたちのために」を再発見する一年でもありました。今年一年のご協力とご支援の心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



# くすのき

特別号

令和3年3月24日

印西市立大森小学校

印西市大森3350

TEL. 0476-42-2089

## しおあじ

じかんをまもる  
あいつつへんじ  
おもいやりのことば  
しせいをただす

## 学校教育目標

学校教育目標  
豊かな心を持ち  
自ら学びたくましく  
生きる子どもの育成